

# 理解の重要性

A message from Rotary's new world leader on  
The Importance of Understanding

——ロータリーインターナショナルの新指導者よりのメッセージ——

去る1月の記念すべき夜R. I. 会長指名委員会が大西洋を越えて長距離電話で私に指名を受諾するか否かを問合わせて来た時以来、私は今年度にどう云う目標を選んだら一番よいかを熟慮して来た。

事実最良の目標と云つた所で格別目新しい考ではない、何故ならば過去数年間、私の考ではロータリーに於てより多くの注意を必要とすると思われるいくつかの事項に多くの省察を払つて来たからである。そこで私は、近年我々が強調して来たように会員数増加の重要性を強調するよりも寧ろ、凡てのロータリアンのロータリー知識を深め増す事の絶対的必要を力説する方が極く大切な事であろうと云う結論に達した次第である。

全く世界の各地には自分の属しているロータリークラブと云う組織を十分に理解していないロータリアンがまだ沢山いることを認めなければならない。

もしロータリーに就いての深い理解がないならばこれに全身全霊を傾注する事は望めないのであるから、彼等の為によりよいロータリー教育を施す為の強い努力が必要であると私は確信しているそこでこれから達成せられべき成果の実例を次に掲げて見る。これを想像して見る丈で私のロータリーに対する熱意が強まつたのである。

数年前迄は満足な成績を挙げていなかつた或るRCのことを、私は今云おうとしているのであるが、そのクラブは会員同志も睦じくなく、出席率も低く、例会にもスピーチはなく、要之このクラブでは一切がロータリー精神を押しつけて行くのに役立つていたようである。

所が新しい会長が選ばれたが、彼は、ロータリーの理想の熱心な追隨者であつた。彼は会員の1人々々に別々にロータリーに於てどれ位多くの利

益があるかを説いてきかせた。間もなく彼は会員達のクラブに対する真の熱意を駆り立てることが出来た。つまり彼は会員に対して自分の熱意を十分に伝達する事が出来たのである。忽ちにして凡てが變り、友情が広まり、出席率も高まり、会員は仲間に会うことを悦びとする様になつた。

この事実は1人の会員がどんなにロータリーにとつて、大なる助けとなりうるかの実証である。即ちロータリーに就いて十分な知識をもち、その精神を深く感じている人が真に大きな助となることがこれによつても判るのである。

ロータリーは根本的には極めて簡単なものであると私は信じている。我々はロータリーの外的な形式や手続に気をとられ過ぎる為に、ロータリーの本当の目的を見失う危険があるのかも知れないと思う。我々はロータリーの組織の基本を取り戻して不要な末節から解放される様に務めなければならない。単純な道が最良の道である。単純になろうでわないか。

嘗て或産業の甚だ高い地位の幹部にロータリアンになる様に働きかけた事があるが、彼の地位は人々の注意と敬意を受けるに足るもので恐らく彼は十分それを知つており、又その事を示してもいた。彼はクラブの入会勧誘を受け容れたがはじめは出席も甚だ不規則であつた。明に彼は自分の身分は「巷の庶民共」と交るには余りに重過ぎるのだ位に思つていたのであろう。彼の考えでは自分より「品威の劣る」職業分類だと思われる職業のロータリアンと並んで坐らせるとは何か不名誉な事だと思つていたらしい。

しかし彼はクラブのパンフレット類を読み続けた。そして徐々に併し着実に彼は要するにこれらのロータリアンは皆世の為人の為にならうとしてゐる人々であるとうことを知り始めた。すると

1956—57. R. I. 會長

## ギアン パオロ ラング

段々彼の出席率もよくなり、例会毎に立派なロータリアン——つまり魅惑する様な態度の素朴謙讓な紳士の傍に坐る事は本当に仕合わせな事だと思ふ様になつた。

すると段々彼は今迄余りに自分を高く思い過ぎていた事、この世には素朴な性質の故に反つて他人の注意を惹く他の立派な人々が多いことを悟り始めた。彼の主我主義が衰え始め、数週間で全く人柄が変る様になつた。

御判りの通り、これはロータリーのおかげである。友情と謙讓の徳を具えぬ人にそれを教えたのはロータリーであつた。

ロータリーのもう1本の柱はその国際的な面である。ロータリーは平和の為に貢献する無比な機会をもつており私は確信している。ロータリーには一切の必要な手段が備つている。我々は諸国民の為に理解と善意を助長する為に真剣な努力をしなければならぬし又する事が出来る。我々の住んでいる世界は色々な困難をもつていて例えば丁度巨大な時限爆弾の様なものであることを銘記しなければならない。

ロータリアンはこう云う危機を避ける為に助力しなければならない。

大戦が終る度毎に、尚国際緊張が跡を曳くのが常であつた。ロータリークラブの中には「元敵国」よりのロータリアンの来訪を拒絶する様なクラブもあつた。しかしこの様な傷痕も今は癒えた——そして治癒のプロセスはロータリーの範囲内ではもつともつと敏速であつた。

1937年ニースの大会の際ポール ハリスが行つたスピーチを諸君は覚えているか。彼は「極東のクラブに於て10有余の人種と宗教が史上始めて共に相会したのである。ロータリー以前の時代にはこの様なことは不可能であると思われていたのであ



る。」と云つた。

扱、これら凡ては一体何を意味するであろうかつまり我々はお互をよりよく知らぬばならないと云うこと、又、我々が友情を築き上げることが出来るのはただお互を知り合う事の結果としてのみであることを意味しているのである。人々が互に友達になる時こそ驚嘆すべき結果が得られると敢て私は云いたい。

要之、1956—57年度の「我々の目標」を要約すると次の通りになる。

1. ロータリーは 簡潔に
2. ロータリアンに もつとロータリーを
3. お互にもつと知り合おう

もし我々の努力が成功するならばこの乱れた世界に於て平和樹立にもつともつと役立つ満足が得られるであろう。

従つて私は全ロータリアンがこの目標達成の努力に奮つて参加されるよう心より熱望するものである。